

胃がん検診と治療

中野医院 中野正美

「18人」。平成12年度の太田市、尾島町、新田町、藪塚本町の胃がん検診で発見された胃がんの数です。18人のうち手術して治る確率の高い「早期胃がん」が12人でした。ちなみに1市3町で昭和61年度～平成12年度までの15年間の検診で発見された胃がんは254人（早期157人、進行97人）、食道がん17人でした。

早期胃がんというのは、胃の壁の粘膜層（食物と接する部分）付近にとどまっているがんのことです。胃がんの治療は、手術をして胃を一部ないし全部とります。しかし、近年内視鏡（胃カメラ）を使って「がん」を胃の壁から電気やレーザーで取る、おなかを切らない治療も可能です。この方法は、早期胃がんが対象です。

がん細胞は粘膜から発生して増え、その後、胃の壁深く潜っていきます。これを「進行胃がん」といいます。進行胃がんは、なぜ早期胃がんに比べて治りにくいかというと、がん細胞がほかに（例えば腹膜・肝臓など）「転移」していることが多いのです。胃を手術して、抗がん剤や放射線治療などを行っても、転移したがん細胞を全部やっつけるのは難しいのです。

日本人の死亡原因の第一位は「がん」です。最も多いのは、以前は胃がんでしたが、今は肺がんです。しかし、胃がんの発病が減ったわけではありません。がん検診が全国の職場や自治体で長年行われていることや、医療機関の検査が充実してきた結果だと思えます。

太田市では、受診者は昭和61年に約6300人でしたが、平成12年には、約3500人にまで減少しました。医療機関で個人的に、あるいは職場で検診を受けていれば結構ですが、検診をしていない人が増えたのが心配です。太田広域健診センターのレントゲン車による集団検診に加えて、平成11年度から医療機関で検査する個別検診が行われています。個別検診は、今年も5月～11月末まで実施医療機関で受けられます。

早期胃がんはほとんど治せます。職場検診、住民検診、（車検診・個別検診）いずれか胃がん検診を受けるようにしましょう。
